

特別展「気象—空となかよく—」への招待

吉村博儀

科学文化センターでは7月18日(土)から10月4日(日)まで、特別展「気象—空となかよく—」を開催します。

この展示では、気象現象に親しみ、これを体験し、また今話題になっている異常気象などを通して、気象に関心を持ってもらいます。

ここでは、いくつかのコーナーとその内容について紹介します。

◎激しい気象現象

台風は日本に年何回か接近、あるいは上陸します。最近台風予報精度が向上し、また防災面でも防潮堤などの設置によって被害が少なくなってきました。それでも、まだまだ多大な被害を与えることがあります。昨年の台風19号の被害は記憶に新しいと思います。

竜巻は日本では、その年によってばらつきがありますが、平均18回起きています。しかし強いものではなく、しかも海での発生が多いためそんなに目立ちません。

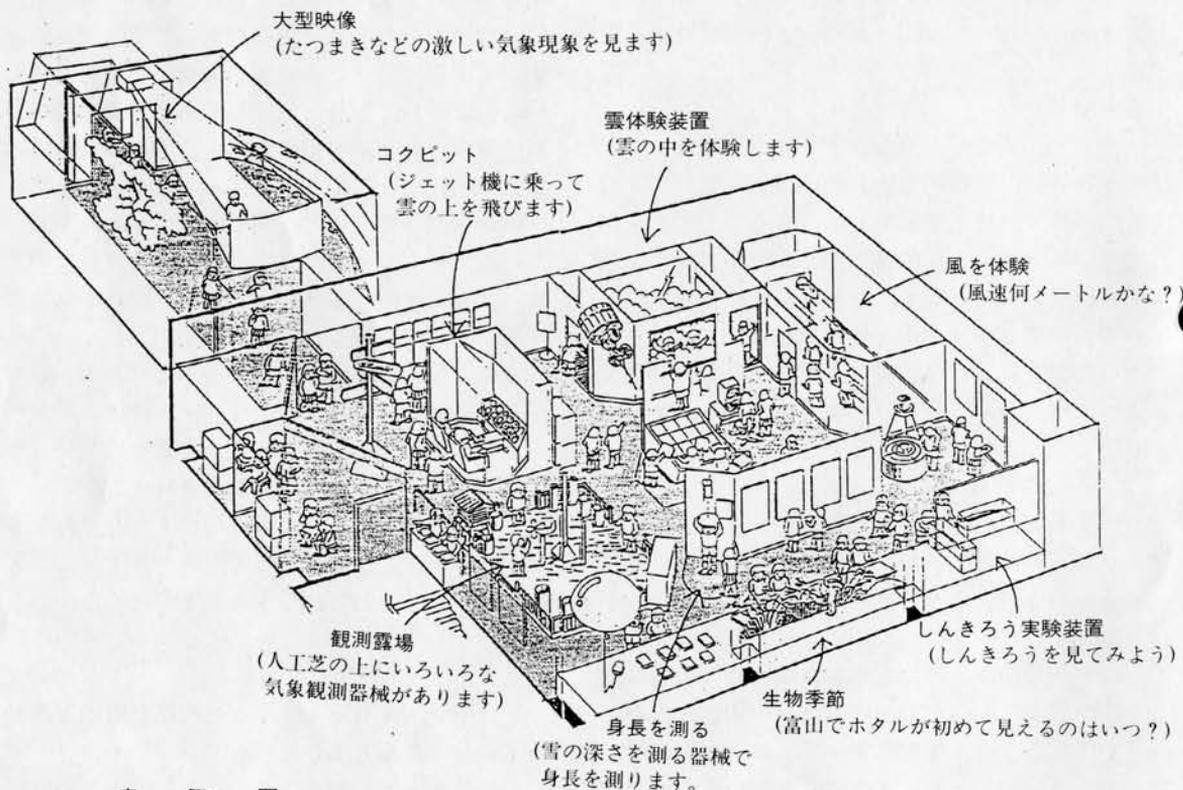
一方、アメリカでは毎年多数発生し、大きな被害を与えています。

このコーナーでは、これら激しい気象現象の紹介と、それらが地球の大きさと比べて、ほんの薄い空気層の中で起きていることを紹介します。

◎雲にのって

このコーナーでは地上からみた雲、飛行機からみた雲、宇宙からみた雲と、いろいろな高さから見た空を紹介します。

地上からみた雲では巻雲を始め代表的な十種類の雲を紹介します。加湿器を使って曇らせた通路



を通ることにより雲の中を体験します。

飛行機から見た雲では、飛行機の操縦席にいる雰囲気から離陸から雲の上の飛行、そして着陸までを体験します。

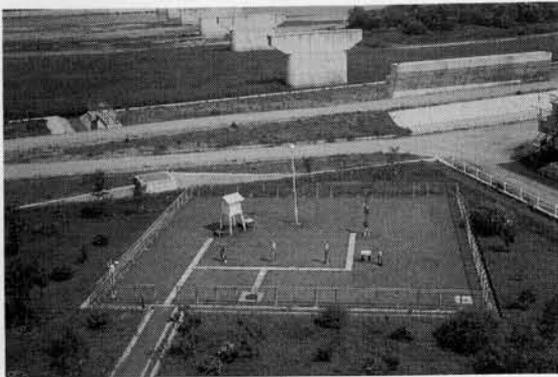
宇宙から見た雲では、気象衛星「ひまわり」が撮影した日本付近の雲の動きを一年間にわたって見ることができます。

◎空となかよく

このコーナーでは気象台で見られる観測露場（気象観測を行う場所）を設置し、温度計、風向風速計などを置いて、そこで得られる気温・風速・風向などを、アメダスに使われていた測定機を使って表示します。

また、積雪深計を使って身長を測ることができます。身近なところでは、雨粒の大きさを測る方法を紹介します。

現在の最新の天気予報の実際と、昔からの言い伝えにある空や雲などの様子から天気を予想する観天望気かんてんぼうきについても紹介します。



露場風景

◎風と遊ぶ

風はいろいろなところで、いろいろなスケールで吹いています。

身近なところでは、晴れた日に昼と夜で風の変わる海陸風が、地球の周りには天気の変化に関係する偏西風が吹いています。

そんな風を紹介するとともに実際に風の強さを体験します。

◎富山の不思議

富山で見える不思議な気象現象のいくつかを紹介いたします。

春の蜃気楼は、下が冷たくて上が暖かい空気の層を光が通るとき、それが曲がることによって起きる現象で本当の景色の上に逆さの像が出来ます。

春の、暖かくて風の弱い日に現れることがあります。現れる回数は年によってバラツキがありますが、平均すると年に4～5回です。



春の蜃気楼

冬の蜃気楼は春とは反対に下が暖かくて上が冷たい空気の層を光が通ることによってできるもので、本当の景色の下に逆さの像ができます。砂漠の蜃気楼や逃げ水と同じ仕組みのものです。

この蜃気楼は季節を問わず見ることができ、それほど珍しいものではありません。

この他に、フェーン現象や、富山湾の冬によくやってくる寄り回り波も紹介します。

気象は私たちの生活に直接、あるいは間接に大きな影響を与えています。この機会に気象のいくつかの面に接し、仲よくなってもらえれば幸いです。

(よしむら ひろよし)

科学文化センター 主任学芸員)